

レプリカ環境サーバでのアップグレード手順（2017.2 -> 2019.1）

説明

レプリカ環境サーバでのアップグレード手順（2017.2 -> 2019.1）を説明しています。
※パッケージインストールではない場合の手順となります。



重要

- ・LinuxOSでの作業手順です。
 - ・Helix Coreサーバを起動しているOSユーザが"root"として説明を行っています。
 - ・"root"以外のユーザで実行している場合、環境に合わせてコマンド実行ユーザと権限設定をお願いします。
- ご不明の場合は、作業前にテクニカルサポートまでご連絡ください。

手順



重要

この手順では、以下のコミット - エッジサーバ構成でのアップグレード手順を紹介しています。

- 例

エッジサーバ2 --- エッジサーバ1 --- コミットサーバ

レプリカ環境構成では、外側のサーバ（ここではエッジサーバ2）からアップグレードを行い、つぎに、エッジサーバ1のアップグレードを行います。

最後に、エッジサーバ1とエッジサーバ2を停止したまま、コミットサーバのアップグレードを行います。

1. エッジサーバ2の停止

以下のコマンドから、エッジサーバ2を停止します

実行コマンド

```
# p4 -p server:port -u super admin stop
```

- * **server:port**には、アップグレード対象のエッジサーバ2を指定します。
- * **super**には、super権限ユーザを指定します。

2. エッジサーバ1の停止

以下のコマンドから、エッジサーバ1を停止します。

実行コマンド

```
# p4 -p server:port -u super admin stop
```

- * **server:port**には、アップグレード対象のエッジサーバ1を指定します。
- * **super**には、スーパー権限ユーザを指定します。

3. コミットサーバの停止

以下のコマンドから、コミットサーバを停止します。

実行コマンド

```
# p4 -p server:port -u super admin stop
```

- * **server:port**には、アップグレード対象のコミットサーバを指定します。
- * **super**には、スーパー権限ユーザを指定します。

4. チェックポイントの取得（コミットサーバ）

p4dプログラムのバージョンアップを開始する前にチェックポイントを取得します。
チェックポイントを取得するには、以下のコマンドを実行します。

実行コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -jd
```

*P4ROOTには、環境に適したパスを指定します。

5. チェックポイントの取得 (エッジサーバ)

p4dプログラムのバージョンアップを開始する前にチェックポイントを取得します。
チェックポイントを取得するには、以下のコマンドを実行します。

実行コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -jd
```

*P4ROOTには、環境に適したパスを指定します。

6. p4dプログラムのバックアップ (全サーバ)

既存の"p4d"プログラムをバックアップします。ここでは、既存の"p4d"プログラムが/usr/sbinに配置されている前提とします。

バックアップコマンド例

```
# mv /usr/sbin/p4d /usr/sbin/p4d_20172
```

7. p4dプログラム (Ver.2019.1) のダウンロード (全サーバ)

ダウンロードサイトから"p4d"プログラム (Ver.2019.1) をダウンロードします。
この手順では、"p4d"プログラムを/tmpへダウンロードした例として説明します。

ダウンロードサイト

[Helix Core \(Perforce\) 製品ダウンロード](#)

8. パーミッション設定 (全サーバ)

ダウンロードした"p4d"プログラムへ実行権を追加するため、以下のコマンドを実行します。

パーミッション設定例

```
#chmod +x /tmp/p4d
```

9. p4dプログラム (Ver.2019.1) の配置 (全サーバ)

手順7でダウンロードした"p4d"プログラム (Ver.2019.1) を/usr/sbin配下へ配置します。

配置コマンド例

```
# mv /tmp/p4d /usr/sbin
```

10. p4dバージョンの確認 (全サーバ)

以下のコマンドを実行し、p4dバージョンがアップグレードされていること、コマンドパスが通っていることを確認します。

バージョン確認コマンド例

```
# p4d -V
```

期待する結果

```
...
Rev. P4D/LINUX26X86_64/2019.1/1865205 (2019/10/11).
License: none
```

11. Helix Coreデータベースの更新 (エッジサーバ2)

以下のコマンドを実行して、Helix Coreデータベースを更新します。

データベーススキーマ更新コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -xu
```

*P4ROOTには、環境に適したパスを指定します。

期待する結果

```
2018.1: removing existing db.graphindex.  
2018.2: Initialize Extensions depot and server.extensions.dir.  
2018.2: Normalize a field in the triggers table.  
2019.1: building db.storage from db.rev, db.revsh and db.revtx  
2019.1: Adding default namespace to Extension configurations ...upgrades done
```



注意

データベーステーブル"db.rev"関連の情報が多い場合、一時的にコマンドの応答が遅くなる場合があります。コマンドを強制終了しないように注意してください。

- 対象メッセージ
2019.1: building db.storage from db.rev, db.revsh and db.revtx

12. Helix Coreデータベースの更新（エッジサーバ1）

以下のコマンドを実行して、Helix Coreデータベースを更新します。

データベーススキーマ更新コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -xu
```

*P4ROOTには、環境に適したパスを指定します。

期待する結果

```
2018.1: removing existing db.graphindex.  
2018.2: Initialize Extensions depot and server.extensions.dir.  
2018.2: Normalize a field in the triggers table.  
2019.1: building db.storage from db.rev, db.revsh and db.revtx  
2019.1: Adding default namespace to Extension configurations ...upgrades done
```



注意

データベーステーブル"db.rev"関連の情報が多い場合、一時的にコマンドの応答が遅くなる場合があります。コマンドを強制終了しないように注意してください。

- 対象メッセージ
2019.1: building db.storage from db.rev, db.revsh and db.revtx

13. Helix Coreデータベースの更新（コミットサーバ）

以下のコマンドを実行して、Helix Coreデータベースを更新します。

データベーススキーマ更新コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -xu
```

*P4ROOTには、環境に適したパスを指定します。

期待する結果

```
2018.1: removing existing db.graphindex.  
2018.2: Initialize Extensions depot and server.extensions.dir.  
2018.2: Normalize a field in the triggers table.  
2019.1: building db.storage from db.rev, db.revsh and db.revtx  
2019.1: Adding default namespace to Extension configurations ...upgrades done
```



注意

データベーステーブル"db.rev"関連の情報が多い場合、一時的にコマンドの応答が遅くなる場合があります。コマンドを強制終了しないように注意してください。

- 対象メッセージ

2019.1: building db.storage from db.rev, db.revsh and db.revtx

14. コミットサーバの起動

通常手順でコミットサーバを起動します。ここでは、起動コマンド例を紹介します。

起動コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -p 1666 -L log -v server=3 -d
```

*P4ROOTには、環境に適したパスを指定します。

15. Helix Coreバージョンの確認

以下のコマンドを実行し、起動中のコミットサーババージョンがアップグレードされていることを確認します。

バージョン情報確認コマンド例

```
# p4 -Ztag info
```

期待する結果

```
...  
Server version: P4D/LINUX26X86_64/2019.1/1865205 (2019/10/11) ...
```

16. エッジサーバ1の起動

通常手順でエッジサーバ1を起動します。ここでは、起動コマンド例を紹介します。

起動コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -p 1666 -L log -v server=3 -d
```

*P4ROOTには、環境に適したパスを指定します。

17. エッジサーバ2の起動

通常手順でエッジサーバ2を起動します。ここでは、起動コマンド例を紹介します。

起動コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -p 1666 -L log -v server=3 -d
```

*P4ROOTには、環境に適したパスを指定します。

18. "db.storage"の構築状況確認（コミットサーバ）

Ver.2019.1から、新しく"db.storage"テーブルが追加されました。

このテーブルは、バージョンアップ後にHelix Coreサーバを起動するとともにバックグラウンドで構築が始まります。

構築状況は、以下のコマンドから確認できます。

構築状況確認コマンド例

```
# p4 -u super -p server:port storage -w
```



補足

200GBを超えるdb.revテーブルがある環境では、完了までに数時間かかる場合があります。

構築終了時には、以下のコマンド結果を返却します。

終了時の返却メッセージ
The storage upgrade process is complete.

アップグレード手順は以上となります。